



# Be an ACE!

大志・貢献・活力

県立直江津中等教育学校

H26学校だより No. 23





平成26年9月26日発行

## 前期課程 上越合同新人各種大会

10月1日(水)に上越合同新人大会が下表のとおり開催されます。3年生が前期部活動を引退した後、2年生を中心にチーム作りに励んできました。新チームとして初めての中体連主催の公式試合を迎えます。対戦相手を意識しながら試合をすることは当たり前のことですが、本当に勝負しなければならない相手は自分自身にあると思います。仲間を信じ、試合終了まで力の限りがんばることを期待しています。またマナーにおいても中等生としての自覚と誇りをもって大会に臨んでほしいと思います。

### 前期課程 上越合同新人各種大会の会場と対戦相手

期日 10月1日(水)

◇野球部	糸魚川美山球場		対 吉川中
◇サッカー部	新井総合公園		リーグ戦(柏崎翔洋中等、附属中)
◇バレーボール部	リージョンプラザ上越		対 吉川中
◇男子バスケット部	城西中学校		対 雄志中
◇女子バスケット部	城北中学校		対 柿崎中
◇男子テニス部	上越総合運動公園テニスコート		リーグ戦(城東中、吉川中、新井中)
◇女子テニス部	上越総合運動公園テニスコート		リーグ戦(大潟町中、附属中)
◇卓球部	上越総合体育館		男子個人戦 女子リーグ戦・個人戦 (八千浦中、潮陵中、城東中、城西中)
◇剣道部	浦川原体育館		リーグ戦・個人戦
◇器械体操	大潟体操アリーナ		個人戦

### 来週の主な予定

- 29日(月) ・後期課程期末考査 ・3学年PTA役員会
- 30日(火) ・後期課程期末考査 ・PTA環境整備部打合せ
- 10月1日(水) ・後期課程期末考査  
・前期課程上越合同新人各種大会(1, 2年は午前放課、給食なし)  
・カウンセラー来校日
- 2日(木) ・前期課程芸術鑑賞教室 ・後期課程薬物乱用防止教室  
・1学年PTA役員会 ・前期課程フッ化物洗口
- 4日(土) ・4学年スタディサポート ・4学年海外研修説明会(14:00~)  
・5学年駿台全国模試(希望者)



## お知らせ

### ○ ジャズ公演のお知らせ

前期課程の保護者の皆様には、既にご案内済みですが、以下のコンサートを開催します。

後期課程の保護者の皆様も参加可能ですので、希望される方は、以下にご連絡ください。

「主催」 上越文化会館・本校 上越文化会館のアウトリーチ(芸術普及事業)

「日時」 10月2日(木) 13:45開場 14:00開演 15:00終演予定

「ところ」 本校大体育館 「参加費」 お一人100円

「出演者」 鈴木良雄(ベース) 増尾好秋(ギター) 井上信平(フルート)

「お申し込み先」 本校担当:伊藤薫教諭 Tel 543-2328 期限:9月30日(火)

## 成26年度全国学力・学習状況調査(3年生対象)の結果について

県立直江津中等教育学校

本校の命題である学力向上を図るため、以下のことに重点的に取り組んでいます。

- ・生徒の学力や学習状況を分析しその結果に基づいての指導  
学力推移調査などを活用し、定期的に生徒の学力及び学習状況について分析し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てています。とりわけ中等教育学校の特長を生かし、6年間のスパンを見据えた指導を展開しています。
- ・授業研究及び研修による授業力向上  
各教科部ごとに、公開授業を実施し授業技術を磨くとともに、全国各地で実施される研修会に積極的に参加し、最新情報を授業に反映できるように工夫しています。
- ・生徒による授業評価に基づいた授業力向上  
教員一人一人の授業力の向上に資するため、生徒による各授業の評価を実施しています。

先日、標記の調査結果が返却されました。本校の標記の調査結果とその分析と対策は以下のとおりです。全体的には概ね良好ですが、国語と数学ともB問題（主に活用の問題）の正答率が低く課題が残りました。

標記の調査目的は、学習状況を把握・分析し、生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるものです。本校では、上で述べたとおり生徒の学力・学習状況の分析→今後の方針や対策→教育指導の充実や学習状況の改善→評価のサイクルで更なる学力向上を図っていきます。大学入試等では、活用力を問う問題が多く出題されますので、今後活用力を育成するよう、教科指導を更に充実させていきます。

	問題の特色	設問数	平均正答率本校	新潟県(公立)	全国(公立)
国語A	主として知識	32	93.6	79.5	79.4
国語B	主として活用	9	76.6	50.3	51.0
数学A	主として知識	36	90.3	67.9	67.4
数学B	主として活用	15	84.0	59.8	59.8

※中等教育学校である本校は、学習進度が中学校と異なるため単純な比較はできませんので、ご注意ください。

### 【国語問題の分析と今後の対策】

A・Bともに全国平均を大幅に上回るが、国語Aでは「話すこと・聞くこと」の領域が他に比べて落ち込んでいる。国語Bで正答率が低い部分の共通点は、出題の意図からすると、資料から必要な情報を読み取り活用することである。いずれにしても、相手に自分の意図を伝えるにはどうするか、相手の意図を汲み取るために何に注意すべきかという点で弱いといえる。普段の学習の中では、キーセンテンスをつかむということがまだまだ不得手であることと関連があるものと思われる。

今後は基礎知識の更なる定着を図りながらも、授業でも筆者の伝えたいことは何か、繰り返すつかむ練習をしていく。

### 【数学問題の分析と今後の対策】

A・Bともに全国平均を大幅に上回り、普段の学習の成果が出ている。しかし、Bが90%に達しておらず、活用力の育成が課題である。また、分野別では「資料と活用」・「関数」の正答率が低く、問題形式別では記述式の正答率が低い結果であった。

今後は正答率の低い分野の復習をしっかりと行い、後期課程でも苦手意識をもつ関数分野については既習事項の復習をしながら丁寧に授業を進めていく。また、なぜそうなるのかをきちんと考え、文章で表現し、発表するなど、数学の授業でも言語活動を更に充実させていく。